

教学半也



ご意見はコチラから

令和8年2月26日

No.23

全ての読者対象

〈教科等における「探究の学び」充実〉 ～南箕輪村立南箕輪中学校の取組から～

南信教育事務所では、本年度、各学校のニーズに合わせて訪問させていただきました。

本号では、学校改革支援メニューの「教科等における『探究の学び』充実」を窗口に、学校教育目標の具現に向かって学校改革・研究推進に取り組んだ南箕輪村立南箕輪中学校の取組について、3回の学校訪問の様子から紹介します。

教師自身が「探究的な学習の過程」を歩む

南箕輪中学校の先生方は、日頃から「子供自らが主体的に学びに向かうことのできる授業をしたいけれど、どうしたらいいだろう」と感じていました。そのような中、研究主任の楠雄太先生は全校研究テーマ「生徒が確かな学力をつけたと実感できる授業づくり」の実現に向かうための一つの視点として、本年度は職員みんなで「探究の学び」についての理解を深めていきたいと考えました。そこで、

「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」という「探究的な学習の過程」を先生方自身が歩んでいくことができるように研究を進めていきました。

7月16日 訪問1回目

「探究の学び」って何だろう ～問いが子供のものになることが大切～



研究主任
楠先生

〈課題の設定〉

「探究の学び」とはそもそもどのような学びなのか、授業の中で探究に向かう子供の姿とはどのような姿なのかを先生方と一緒に考えたい。

〈まとめ・表現〉

【研修会後のある先生の振り返り】

- ・子供たち自らが問いを見いだすことができるという。
- ・個々や仲間と共に問いの解決に向けて追究していき、また新たな問いを見いださせていけることが大切。等

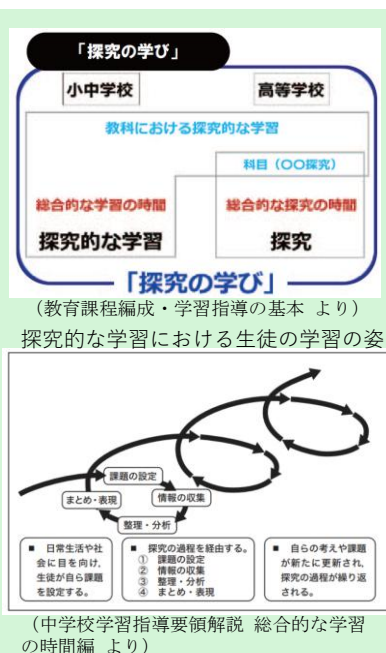
〈情報の収集〉

【指導主事による説明】
青本や学習指導要領の解説から、「探究の学び」や「探究的な学習の過程」等について確認。

〈整理・分析〉

【情報を自校の実態に照らして整理】

- ・子供自身が確かな学力を実感するためには、目の前の子供たちが学びに主体的に向かうことができることが大事。そのためにも、子供自身が課題設定できると良い。等



「探究の学び」を実感したい ～子供の学びを疑似体験～



先生方

【付箋を用い、
互いの思いを共有】

一つの事象
に対して
生徒は同じ
ように感じ
ていない

生徒が自分の学びの
あり方、学びの
方法、過程
など学びの姿を
自分で気づいて
授業をしたい

「探究の学び」のおおまかなイメージ
はできたけれど、具体的な授業場面や
子供の姿でイメージできるようになると、
自分の授業にいかせそう。

【指導主事による紹介】

指導主事による模擬授業を通して、先生方自身が子供の思いや
感じ方を体験。

【改めて「問い」のもつ意味を考え、自身の日頃の授業を振り返る】

- ・前時の「振り返り」や、子供のつぶやきが「問い」につながるような導入をしたい。
- ・日常の題材や生徒が興味のあるものを「問い」につなげたい。
- ・子供たちが話し合いや追究できる十分な時間を確保したい。等

「探究の学び」に挑戦しよう

～夢中になって対象に向き合う子供たちの学びの姿のために～



理科担当
渡辺先生

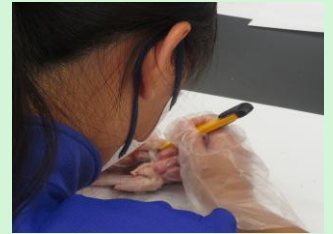
子供が興味をもって主体的に探究していく授業にしたい。そのためにも、
子供自身が「問い」をもてるようにしたい。

【授業研究会後半：「探究の学び」を実現するための授業構想】

- ・学習の見通しを立てられるような体験活動を入れたい。
- ・自分の生活経験と重なる題材で、探究に挑戦できそう。等

【実際の授業】

2学年「発見！手羽先が動くメカニズム」
模型を見て、筋肉が縮むことでヒトの腕が
曲がる仕組みを知った子供たちは、実際に確
かめてみたいと考える。教師は鳥の手羽先を準備。
手羽先の皮をはがし、筋肉の付き方や動きの
仕組みを夢中になって観察する子供たちの
様子を先生方は参観。



黙々と手羽先を
観察し続ける子供

【授業研究会前半：授業での生徒や授業者の良さを語り合う】

- ・前時、模型を使ったことで、学習の見通しを立てることができたのではないかな。
- ・夢中になって筋肉の付き方や動きの仕組みを解明しようとする子供のまなざしから、「問い」が子供のものになっていることを感じた。等

1年間の研究を振り返り、楠先生は次のように語っています。



研究主任
楠先生

全訪問が終わりしばらくして、技術・家庭科の先生が、「自分の生活をより豊かにするため、試行錯誤しながら納得がいくまでスマートフォンを置くためのクッションを作成し続けた子供の姿が、まさに『探究の学び』だった」と、自身の授業の様子を話してくれました。職員みんなで1年間考えてきた「探究の学び」が、先生方に染み込んでいっていることを実感しました。何より話をしてくれた先生の表情がパッと明るくなり、「探究の学び」が身近にあることが印象的でした。

探究についてぼんやりしていた4月から、身近なところに「探究の学び」のヒントがあることに気づき、本校の学びの営みに「探究の学び」を少しずつ価値付けられたことが、研究主任としての喜びです。

教師自身が問いをもち、その解決に向かうために研修会や授業参観に意欲的に参加し、授業実践に取り組み、その中で得た気づきを整理・分析し、まとめていくことで、漠然とした「探究の学び」に対する問いから「探究の学び」の実践に向けての問いへと問いの質が高まり、更新されていく。「探究的な学習の過程」を歩んだ南箕輪中学校の先生方にとって、まさに主体的に「探究の学び」について深く考える一年間であったと思います。

「子供と教師の学びは相似形」と言われます。南箕輪中学校の先生方の学びは、子供の学びにもつながっていくはずで